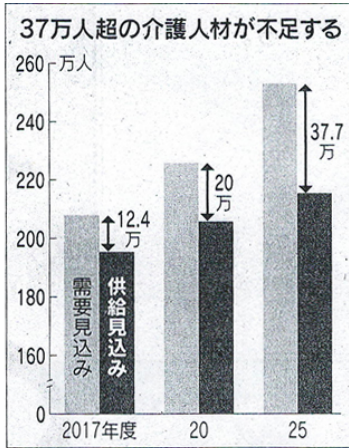


- 01/01・国内新車販売500万台超え 17年 軽が回復 ピーク時1990年は777万台
- ・イラン、反政府デモ拡大 経済制裁解除の期待からの不満 ロウハニ政権苦境
- 01/03・アリババと「つながる車」をホンダ開発、中国開拓 車載端末でネット決済
- ・介護技能実習生に国家試験合格で在留資格 深刻な人材不足補う < 1 >
  - 厚労・法務省が制度見直し 介護現場2025年に37万人人手不足 「技術移転」との整合性課題
  - ・FX取引、17年5年ぶりに前年割れ 円の値動き乏しく
  - ・新規上場10年ぶり高水準 17年、世界で45%増 中国勢5割増最多の554件
  - インドは76%増の164件 日本は前年並み94件 米市場の上場企業数はピーク時から半減
- 01/04・日本の海外直接投資5年で倍174兆円 昨年9月末残高 内需型企業が活発
- 小売りなどの海外進出目立つ この1年間で5年間の増加額の4割
  - ・12月FOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨 利上げ加速に言及
  - 「減税効果は不確かなものの設備投資押し上げ」
  - ・原油、2年8カ月ぶり高値 NY市場 イラン政情不安で
  - ・米新車販売8年ぶり減 昨年1.8%マイナス < 2 >
- 01/05・大発会（4日）日経平均26年ぶり高値の2万3500円台 時価総額初の700兆円
- ・NY株、初の2万5000ドル 世界景気拡大に期待 23営業日で1000ドル上げ
  - ・「CPU安全性に穴」波紋 インテル製などにリスク IT機器全体に懸念
  - ・短期国債外国人が支え 保有率、6割に迫る 金利変動にリスクも < 3 >
  - 米利上げ→ドル需要→ドル保有者が金利をつけて円と交換→マイナス金利国債購入でも利ざや
  - ・南北会談9日開催 高位級2年ぶり 北朝鮮応じる
  - 米「五輪の安全確保」 韓国との軍事演習、閉会後に
- 01/06・米雇用12月14.8万人増 失業率4.1% 賃上げ波及焦点 利上げ加速も
- ・アジア経済進む「中国化」 GDP押し上げ効果2030年に米を圧倒
  - ・欧州、再生エネ新設急増 電力大手が原発50基分 加速する「脱化石燃料」
- 01/07・米韓FTA、難路の再交渉 5日初会合 < 4 >
- ・国内不動産に海外マネー 取得額1.1兆円 3年ぶり最高 < 5 >
  - 日限のマイナス金利政策が後押し 海外勢初の1兆円台 比率24% 過熱感に危うさ
- 01/08・トランプ政権内幕本、売り切れ続出 大統領の反論が反響を増幅 < 6 >
- ・中国外貨準備3年ぶり増加 昨年末、資本規制で介入減 改革逆行、外資撤退も
  - ・イランデモ、収束の兆し 当局の情報規制が効果

< 1 >



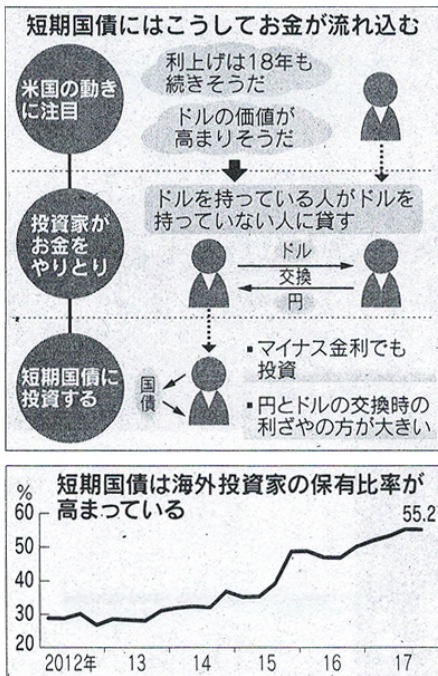
< 2 >

2017年の米新車販売  
(カッコ内は前年比増減率、%、▲は減少)

メーカー	販売台数
G M	2,999,605 (▲1.4)
フォード	2,575,200 (▲0.9)
トヨタ	2,434,518 (▲0.6)
F C A U S	2,059,376 (▲8.2)
ホンダ	1,641,429 ( 0.2)
日産	1,593,464 ( 1.9)
現代自	1,275,223 (▲10.4)
V W	569,687 ( 6.1)

(注)米オートデータ集計。F C A U S は旧クライスラー、現代自は傘下の起亜自動車含む

< 3 >

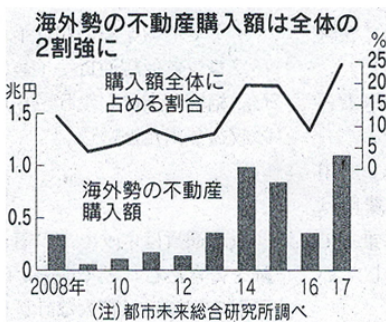


< 4 >

米韓FTA再交渉で予想される焦点

米国の要求
自動車の非関税障壁見直し
<ul style="list-style-type: none"> <li>米国の安全基準を満たした製品をそのまま韓国に輸出できる台数制限の引き上げ</li> <li>乗用車向けに撤廃した2.5%関税の復活</li> <li>19年以降に25%から段階的に引き下げるトラック向け関税の維持</li> </ul>
農畜産物の追加開放
<ul style="list-style-type: none"> <li>15年以上の長期撤廃期間を設定した農畜産物の関税の即時撤廃</li> </ul>
韓国の要求
I S D S (投資家と国家の紛争解決) 条項の見直し
反ダンピング関税など貿易救済措置の見直し
(注)米韓政府発表や独自取材、米韓メディア報道を基に作成

< 5 >



< 6 >

「炎と怒り」の内容は…

- 多くの政権幹部がトランプ氏を陰で嘲笑。ムニューシン財務長官は「ばか」、マクマスター大統領補佐官は「間抜け」
  - トランプ氏は1ヶ月の説明資料すら読み通せず、理解力も不足している
  - 大統領選の勝利は陣営の大半に予想外で、トランプ氏本人も当惑。投票夜の夜はまるで「幽霊をみたかのような様子だった」
  - 長女イバンカ氏は初めての女性大統領をめざしている。夫のクシュナー氏とも合意済み
  - クシュナー氏がロシア人弁護士と面会したのは「反逆罪に値し、非愛国的だ」
- (バノン前首席戦略官・上級顧問)